

令和6年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	三浦 敏忠	生徒指導主事	新田 祐介
取組事例名	『小中児童生徒合同アイスブレイク』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢交流を通じて、上級生として必要な資質・能力の向上を図る。</li> <li>・小中一貫校の設立に向けて、児童生徒同士の交流を深め、新入生の入学ギャップを解消する。</li> <li>・同じ敷地に生活をする児童・生徒間の親睦を深め、今後の学校生活の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の形成者として、多様な他者の個性を受け入れ、より良い人間関係を築こうとする児童・生徒</li> </ul>



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p><b>第1回交流行事（生徒会企画）レクリエーション内容</b>          生徒会が司会を行い、体育館で児童生徒に向けて指示を出す。</p> <p>①「貨物列車」          移動しながらじゃんけん（生徒・児童）をして負けたら、最後尾の人の肩をもち、長い列をつくる</p> <p>②「猛獣狩りに行こうよ」          キーワードの文字数と同じ人数で集まり、その場でグループをつくる。</p>	<p>生徒にめあてをもたせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の交流という目的を意識させるために、じゃんけん等の関わりがある際は児童と生徒が行う（児童同士・生徒同士は禁止）という条件をつけた。</li> <li>・司会原稿のなかに、行事の目的を入れ、活動前に児童と生徒に意識させた。</li> <li>・生徒会だけが主催するのではなく、児童会も企画を考えるなど互いが主体的に取り組むようにした。</li> </ul>
<p><b>第2回交流行事（児童会企画）レクリエーション内容</b>          児童会が放送により進行を担当し、各教室にわかれた縦割り班にむけて指示を出す。</p> <p>①自己紹介ゲーム          順番に自己紹介をしていき、自分の番までに自己紹介をした人の名前を覚える。</p> <p>②限定文字しりとり          文字数を限定して縦割り班内でしりとりを続ける。</p>	<p>生徒の意欲を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれでもわかりやすく、参加できる内容にするように指示した。</li> <li>・児童と生徒が必ず会話や協力するようなルール作りを促した。</li> </ul> <p>生徒の頑張りを認め、価値付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計2回の交流をより深めるために、小中合同で「愛拶 BINGO」（あいさつの作法などを BINGO の項目にする）を実施し、継続した関係作りを維持させた。</li> </ul>



3 成果と課題					
<p>成果：学校評価アンケート（生徒対象）では、学校行事に参加することが楽しいと感じる生徒が増加した。生徒会や行事に携わった生徒も自信をもって活動に取り組むようになった。</p> <p>項目：「学校やクラスの行事に参加することは楽しい」</p> <table border="1"> <tr> <td>1 学期肯定的評価</td> <td>2 学期肯定的評価</td> </tr> <tr> <td>91.5%</td> <td>99.4%</td> </tr> </table>		1 学期肯定的評価	2 学期肯定的評価	91.5%	99.4%
1 学期肯定的評価	2 学期肯定的評価				
91.5%	99.4%				
<p>課題：当初は全体で3回を予定していたが、他の行事との兼ね合いで実施できなかった。第1回目は7月に開催した関係で、気温が高く生徒の体調面に関する配慮が必要であった。生徒会だけの指示では、全体にスムーズに通らない場面があり、参加が困難な生徒や指示が受け取れない生徒に対する教員の支援が必要であった。</p>					